



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場会社名 ホッカンホールディングス株式会社

コード番号 5902 URL <http://www.hokkanholdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 工藤 常史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 山崎 節昌

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

TEL 03-3213-5111

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	134,285	1.9	4,677	△17.2	5,329	△14.1	2,697	△5.8
23年3月期第3四半期	131,765	10.2	5,647	53.3	6,205	52.8	2,862	24.9

(注)包括利益 24年3月期第3四半期 2,438百万円 (△17.0%) 23年3月期第3四半期 2,938百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	40.09	—
23年3月期第3四半期	42.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	135,071	42,474	29.6
23年3月期	124,398	39,371	30.7

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 39,933百万円 23年3月期 38,227百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	3.75	—	3.75	7.50
24年3月期	—	3.75	—		
24年3月期(予想)				3.75	7.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	166,000	1.7	4,100	4.0	4,500	0.5	2,200	47.8	32.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有

新規 1社 （社名） PT.HOKKAN INDONESIA 、 除外 1社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年3月期3Q	67,346,935 株	23年3月期	67,346,935 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	71,356 株	23年3月期	68,538 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年3月期3Q	67,276,446 株	23年3月期3Q	67,281,536 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 9
(4) セグメント情報等	P. 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気の低迷や消費の落ち込みからは持ち直しているものの、円高の長期化による輸出の減少や株価の低迷が続くと共に、欧州での信用不安の波及懸念など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当第3四半期連結累計期間の清涼飲料業界における状況につきましては、東日本大震災直後は製品不足に対する増産対応や、福島原発事故により発生した水道水への不安に対するミネラルウォーターの需要増加がありましたが、7月以降につきましては、過剰在庫や電力総量規制の実施等により、一部で生産調整が行われる状況となりました。

また、夏場につきましては、記録的な猛暑であった昨年の反動を受け、8月、9月にて前年を割り込む状況となりましたが、在庫調整が進んだミネラルウォーターの増加や秋の新製品の投入効果などにより、業界全体では前年を若干上回る結果となりました。

カテゴリー別では、ミネラルウォーターが大きく伸び、また、果汁飲料が好調に推移し、コーヒー飲料、紅茶飲料、炭酸飲料は前年並みとなりましたが、スポーツ飲料につきましては前年を下回る結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、一部で東日本大震災による缶詰需要の増加がありましたものの、農産缶詰、水産缶詰ともに夏場の天候不順の影響により原料を確保できず、食品缶詰業界全体としては前年を下回る結果となりました。また、海外製品の輸入につきましては、震災の影響に伴う国内の原料、資材の供給不足により、前年に比べ増加する結果となりました。

(容器事業)

飲料用スチール空缶につきましては、積極的な営業活動を進めてまいりましたものの主力の缶コーヒーにつきましては前年割れの結果となり、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る販売となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、主要販売品目のうち農産缶詰は、主力のスイートコーン缶が天候不順の影響を受けるなど、農産缶詰全体においては前年を下回る実績となりました。また、水産缶詰につきましては、東日本大震災によりお客様の工場等が被害を受けるなどの影響を受けましたものの、当社グループによる復興支援や代替充填先との調整をおこなったことと、10月以降はサンマを中心とした原料が好調でありましたため、水産缶詰全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、食品缶詰用空缶全体では前年を上回る販売となりました。

つぎにプラスチック容器では、飲料用ペットボトル分野におきまして、大型ペットボトル、小型ペットボトルともに東日本大震災直後よりキャップ不足によるお客様の充填調整が発生したことと、電力総量規制による生産調整の影響、また、昨年の猛暑の反動などにより前年を下回る販売となりました。

一方、無菌充填用プリフォーム（ボトル成形前の中間製品）につきましては、順調に受注を伸ばしたため、前年を上回る販売となりました。

食品用ペットボトルにおきましては、醤油および食用油分野において消費低迷の影響を受けたことなどにより、食品用ペットボトル全体では前年を下回る販売となりました。

一般成形品および加工品につきましては、緊急援助物資としての水袋などの受注が増加したものの、園芸関連製品が市場の冷え込みにより減少となりましたため、一般成形品全体としては前年を下回る販売となりました。

エアゾール用空缶につきましては、自動車関連品や塗料用品、工業用品等が景気低迷の影響を受け減少となりましたものの、エアコン洗浄剤や新製品の受注による販売増、夏場の殺虫剤需要の増加などにより、エアゾール用空缶全体では前年を大きく上回る販売となりました。

また、美術缶につきましては、昨年同様お客様による他の包材への移行が進むなど業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、当社グループでは積極的な営業活動を進めてまいりました結果、美術缶全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は、40,870百万円と前年同期に比べ0.8%の増加となりました。

(充填事業)

缶製品につきましては、東日本大震災後の原発停止に伴う電力総量規制を見据えた先行生産等により増産となりましたが、7月、8月はお客様の在庫調整の影響を受けたため減少となりました。また、10月以降は缶コーヒーや炭酸飲料が好調に推移したため、缶製品全体では前年を上回る販売となりました。

ペットボトル製品につきましては、アセプティック（無菌充填）を含む小型ペットボトル製品が、茶系飲料を中心に大型ペットボトル製品の受注にシフトしたこと、また、記録的な猛暑であった昨年の反動を受けたことにより、前年割れの結果となりました。しかしながら、大型ペットボトル製品では、新ラインの稼働に伴い麦茶の増産が寄与したため、前年を大きく上回る販売となり、ペットボトル製品全体では前年を上回る販売となりました。

以上の結果、充填事業全体の売上高は、92,363百万円と前年同期に比べ2.8%の増加となりました。

(機械製作事業)

機械製作部門につきましては、金型やカタログ商品である液体小袋充填機の販売、並びに自動車用クラッチ板への摩擦材貼り付け省力機械等を販売し、機械製作部門全体では前年並みの実績となりました。

エンジニアリング部門におきましては、グループ内の受注の他、東日本大震災からの復旧工事等の受注がありましたものの、前年を下回る実績となりました。

以上の結果、機械製作事業全体の売上高は、1,051百万円と前年同期に比べ26.3%の減少となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間における売上高は、134,285百万円と前年同期比1.9%の増加となり、経常利益は5,329百万円（前年同期比14.1%減）、四半期純利益は2,697百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は135,071百万円（前連結会計年度末は124,398百万円）となり10,673百万円の増加となりました。これは有形固定資産の減少（63,919百万円から61,631百万円へ2,287百万円の減）がありましたものの、売上高の増加及び第3四半期連結会計期間の末日が休日であったことなどにより、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権が増加（27,460百万円から40,761百万円へ13,300百万円の増）したことが主な要因であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は92,597百万円（前連結会計年度末は85,026百万円）となり7,570百万円の増加となりました。これは借入金が増加（45,369百万円から48,236百万円へ2,867百万円の増）したこと及び、買掛金が増加（27,682百万円から32,047百万円へ4,365百万円の増）したことが主な要因であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は42,474百万円（前連結会計年度末は39,371百万円）となり3,102百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益2,697百万円の計上によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期の業績予想につきましては、平成23年8月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社の連結子会社である北海製罐株式会社と株式会社日本キャンパックは、インドネシアにおいて豊田通商グループとの合弁によりPT. HOKKAN INDONESIAを設立し、同社を当社の連結子会社といたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,968	2,086
受取手形及び売掛金	23,429	36,299
電子記録債権	4,031	4,461
商品及び製品	4,370	4,331
仕掛品	2,375	2,715
原材料及び貯蔵品	2,360	1,941
繰延税金資産	844	539
その他	2,361	3,446
貸倒引当金	△29	△22
流動資産合計	43,710	55,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,130	20,641
機械装置及び運搬具（純額）	21,024	21,242
土地	15,873	15,872
リース資産（純額）	729	966
建設仮勘定	4,795	2,534
その他（純額）	365	374
有形固定資産合計	63,919	61,631
無形固定資産	869	1,200
投資その他の資産		
投資有価証券	13,140	13,038
長期貸付金	1	23
繰延税金資産	664	874
その他	2,168	2,579
貸倒引当金	△77	△77
投資その他の資産合計	15,897	16,439
固定資産合計	80,687	79,271
資産合計	124,398	135,071

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31 日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成23年12月31 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,682	32,047
短期借入金	13,205	18,874
リース債務	345	292
未払法人税等	800	1,026
賞与引当金	723	282
災害損失引当金	400	24
その他	5,926	6,386
流動負債合計	49,084	58,934
固定負債		
長期借入金	32,163	29,361
リース債務	583	872
繰延税金負債	50	71
退職給付引当金	2,426	2,349
長期未払金	272	214
その他	446	793
固定負債合計	35,942	33,663
負債合計	85,026	92,597
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	10,750	10,750
利益剰余金	16,192	18,385
自己株式	△22	△23
株主資本合計	38,006	40,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	214	44
繰延ヘッジ損益	6	△34
為替換算調整勘定	—	△275
その他の包括利益累計額合計	220	△265
少数株主持分	1,144	2,541
純資産合計	39,371	42,474
負債純資産合計	124,398	135,071

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	131,765	134,285
売上原価	116,705	119,747
売上総利益	15,060	14,537
販売費及び一般管理費	9,413	9,859
営業利益	5,647	4,677
営業外収益		
受取利息	1	17
受取配当金	208	198
持分法による投資利益	476	554
受取賃貸料	202	171
その他	234	314
営業外収益合計	1,122	1,257
営業外費用		
支払利息	490	446
その他	73	159
営業外費用合計	564	606
経常利益	6,205	5,329
特別利益		
固定資産売却益	0	—
貸倒引当金戻入額	19	—
災害損失引当金戻入額	—	93
その他	16	0
特別利益合計	36	94
特別損失		
固定資産除却損	427	288
固定資産売却損	129	5
減損損失	5	64
投資有価証券評価損	—	260
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	681	—
その他	15	9
特別損失合計	1,260	628
税金等調整前四半期純利益	4,981	4,795
法人税、住民税及び事業税	1,639	1,471
法人税等調整額	173	270
法人税等合計	1,813	1,741
少数株主損益調整前四半期純利益	3,168	3,053
少数株主利益	305	356
四半期純利益	2,862	2,697

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,168	3,053
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△210	△184
繰延ヘッジ損益	1	1
為替換算調整勘定	—	△403
持分法適用会社に対する持分相当額	△20	△27
その他の包括利益合計	△230	△615
四半期包括利益	2,938	2,438
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,636	2,211
少数株主に係る四半期包括利益	301	226

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	容器事業	充填事業	機械製作事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	40,529	89,808	1,427	131,765	—	131,765
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,016	—	2,799	12,815	△12,815	—
計	50,546	89,808	4,226	144,581	△12,815	131,765
セグメント利益	2,475	3,834	166	6,476	△828	5,647

(注) 1 セグメント利益の調整額△828百万円には、セグメント間取引消去114百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△942百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	40,870	92,363	1,051	134,285	—	134,285	—	134,285
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,787	—	3,275	13,063	—	13,063	△13,063	—
計	50,657	92,363	4,326	147,348	—	147,348	△13,063	134,285
セグメント利益又は損失(△)	1,483	4,097	133	5,714	△24	5,689	△1,011	4,677

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業であります。

2 セグメント利益の調整額△1,011百万円には、セグメント間取引消去22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,034百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。